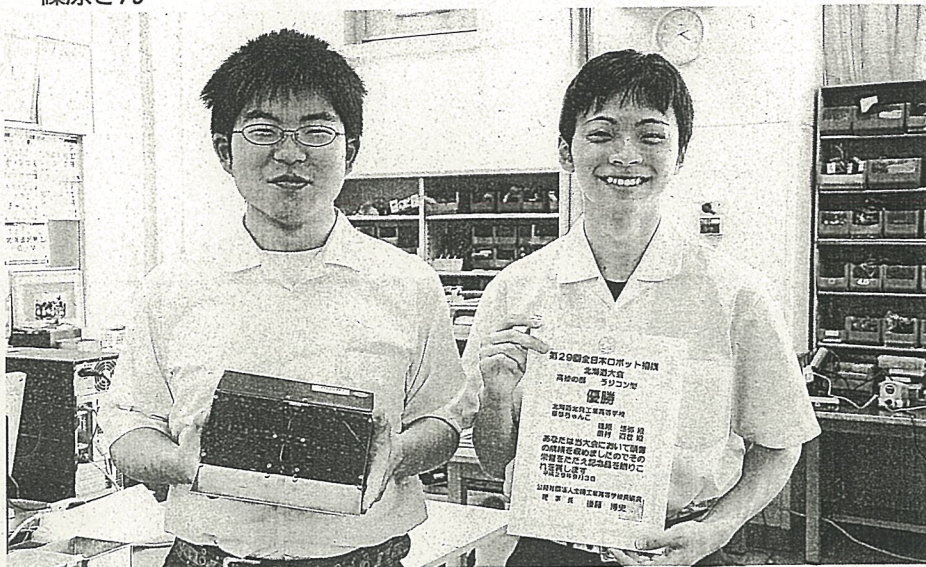


賞状と愛機「童夢ちゃんこ」を手に笑顔を見せる(右から)田村さん、篠原さん



ロボット相撲全道初V

北見工業高「2年間の集大成」

北見工業高のものづくり研究部の生徒2人が今月、旭川で開かれた第29回全日本ロボット相撲北海道大会の高校生の部で優勝した。同校からは10回目の出場で初の快挙。昨年の大会では機械トラブルで戦うことすらできなかった。その悔しさをバネに栄冠を勝ち取った。

(川崎博之)

優勝したのは電子機械科3年の篠原悠弥さん(18)と田村直登さん(18)、そして2人が約2カ月間かけて完成させた愛機「童夢ちゃんこ」。

大会では各校が、20センチ四方の自作箱形ロボットをリモコンで操作し、直径1・5センチの鉄製の土俵上で戦わせる。ロボットには「ブレイド」と呼ばれる板状の突起物がついており、それで相手を突いて押し出したり、ひっくり返すなどして3試合中2試合を先取すれば勝

ちだ。2人は昨年も、それぞれ先輩とペアを組み出場したが、機械トラブルでともに不戦敗に終わった。

今年、ペアを組んだ2人は同じ過ちを繰り返さないと言、新たなロボットの開発に着手。昨年のロボットでは鉄製の土俵から簡単に押し出されないよう磁石を多めに載んで安定性を高めていたが、今年は磁石の量を減らした。さらに「ブレード」の先を研ぐなどして攻めの能力も向上。完成

した「童夢ちゃんこ」は機動力が一段と増した。

3日に旭川市で開かれた北海道大会には、道内各校から出場した計8チームがトーナメント形式で対戦。

「童夢ちゃんこ」は素早い動きで相手を次々と撃破。

美唄尚栄高と対戦した決勝でも鋭い攻めは衰えず、ストリート勝ちで栄冠を手にした。田村さんは「失敗から改良を重ねた。知恵と工夫を注ぎ込んだ2年間の集大成」と振り返った。

11月には埼玉県で開かれる全国大会に出場。全国9カ所の地区大会を勝ち上がった強豪が頂点を競う。操縦を務める篠原さんは「悔いが残らないよう一つずつ課題をクリアして臨みたい」と意気込んでいる。